

『通信』編集は事務局・進藤修一が担当しております。

連絡先〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL/FAX 0727-30-5355

EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第31号は、7月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL/FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曾沼 明裕（名古屋大学）

大川 一毅（早稲田大学）

進藤 修一（大阪外国語大学）

橋本 敏市（東北大学）

福石 賢一（九州女子大学）

吉村 日出東（明治大学）

大学史研究通信

第30号、2002年5月31日（金）

大学史研究会

第30号の内容：新入会員・会員ニュース・事務局からのお知らせ・大学図書館ニュース・大学史研究情報・『大学史研究』第18号原稿募集、執筆要領・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

新入会員

井上 美香子 会員

所属：九州大学大学院

専門：日本教育史、高等教育史

会員ニュース

荒木 康彦 会員

（住所変更・新住所） 659-0014 芦屋市翠ヶ丘町11-27

Tel 0797-38-1958

柿原 泰 会員

（所属変更・新所属）東京水産大学共通講座 助教授

津田 純子 会員

（所属変更・新住所）

（新所属）新潟大学 大学教育開発研究センター 教授

中村 征樹 会員

(所属変更・新所属) 東京大学先端科学技術研究センター 助手

橋本 鉦市 会員

(所属変更・新所属) 東北大学大学院教育学研究科 教育政策科学講座

福留 東土 会員

(所属変更・新所属) 日本学術振興会特別研究員 (広島大学大学院)

退会者 平野一郎会員、馬越徹会員

事務局からのお知らせ

『大学史研究』編集委員会の構成について

『大学史研究』編集委員会の構成について、事務局で以下のような決定に至りましたので、会員諸氏にご報告いたします。

1. 昨年広島大学で開催された大学史研究会総会決議に基づき、紀要原稿の査読体制と編集体制を確立するために「編集委員会」を設ける。
2. 事務局は「編集委員会」委員を、以下の会員に委託する。
渡辺 かよ子 (愛知淑徳大学)
堀内 達夫 (大阪市立大学)
折田 哲郎 (九州大学)
別府 昭郎 (明治大学)
3. 任期および業務の詳細については事務局と編集委員会で討議し、総会での承認を経て決定される。

(進藤修一記)

原稿募集

『大学史研究通信』第31号は2002年6月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の進藤までお願いいたします。連絡先は最終ページをご覧ください。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属(昇任・学位取得も含む)に変更のある会員は『通信』編集担当進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにございます、進藤研究室宛をお願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数+郵送料(1部の場合90円、2部以上は120円)分の切手を同封の上、編集担当進藤までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

四月は異動も多く、また、会員から多くの情報が寄せられたため、通例一ヶ月近く発行が遅れる『大学史通信』を、計画どおりに会員のみなさまのもとにお届けすることができました。ご協力いただいた会員のみなさまに厚く御礼申し上げます。

事務局のほうは、局員が半分入れ替わり、また事務局所在地も変更したことによって試行錯誤のスタートとなり、相変わらず頼りない状態が続いています。会員のみなさまにはなにかとご迷惑をおかけすることになると思いますが、なにとぞご宥恕くださり、暖かい目で見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

このごろ、私自身がさまざまところで(年令的に)「中堅」と呼ばれるようになってきました。今回の事務局改組で新しいメンバーが増えましたが、これからもさらに事務局員の若返りをはかるべく、「若手」研究者の積極的な発言、会の運営への参加を求めていきたいと考えています。他に関与している研究会でも、院生、若手研究者の存在感が目立っていますが、こういう方々を盛り立て、きちんとした活動の場を提供していくことが、わたしたち30代、40代研究者の役割ではないでしょうか。大学史研究会の運営も、同様の姿勢で望みたいと思います。

研究会の現況を報告させていただきますが、5月31日現在で個人会員148名となっております。最後に事務連絡で恐縮ですが、事務局進藤の連絡先としてメールアドレスを複数掲載いたしました。これまで使用していたアドレスも引き続きご利用いただけますが、プロバイダ変更等によりアドレスが使用できなくなる事態も考えられますので、勤務先のアドレスを併記いたしました。新たに印刷した大学史研究会の封筒には、勤務先アドレスのみが記載されておりますので、混乱を来さないようにこの場を借りてご連絡申し上げます。

(進藤修一記)

大学史研究情報

劉兆傳編『日本植民教育史研究—満州事変 70 周年記念論集—』（現代出版社、2001）

山口 直樹（日本学術振興会特別研究員）

次のような論集が中国で発行されましたのでお知らせします。

劉兆傳編『日本植民教育史研究—満州事変 70 周年記念論集—』（現代出版社、2001）

これは 2001 年 9 月 15 日から 9 月 17 日まで中国東北部の沈陽で満州事変 70 周年を記念して行われた植民地教育の国際シンポジウムの論集です。日本、中国、韓国の研究者の論考が収録されています。（9.18 というのは 1931 年の満州事変の起こった日、9 月 18 日のことです。日本での 8 月 15 日のようなもので 9 月 18 日が何の日か知らない中国人はほとんどいないといっているでしょう。）

高等教育、地方教育、社会教育、比較教育、教育制度と教育政策、教科書問題などの分類で論考が収録されています。

私の専門の科学技術論に関係する論考としては

「満州国」の技術教育—1930 年代の熟練工養成を中心に・・・ 山口 直樹

「満州」の科学技術教育とその影響に関する研究・・・・・・ 王前

「満州国」の職業技術教育に関する研究・・・・・・ 馬立武

「満州国」における職業教育課程の設置とその特徴・・・・・・ 楊永波

などが収録されています。（原文はすべて中国語です。）

王前氏は沈陽師範学院大学教授、馬立武氏は河北大学副教授、楊永波氏は沈陽師範学院大学の大学院生です。いずれも教育を専門としている人ですが、王前氏は昨年 10 月、香港で開催された第 9 回国際中国科学史会議にも来ていたので科学技術史にも関心が高い人だと考えていいと思います。

本書の大きな意義は日本、韓国、中国の研究者が共通の歴史認識を模索しつつ研究成果を出しあったところにあるようにおもわれます。

『大学史研究』第 18 号特別企画について

『大学史研究通信』28 号でもお伝えした通り、本会創設メンバーの一人である横尾壯英先生がご逝去されました。2002 年度発行予定の『大学史研究』第 18 号において、横尾先生の追悼特集を企画することが事務局にて決定され、編集委員会にその旨付託いたしましたことを、会員諸氏にご報告いたします。

（進藤修一記）

2002 年度「大学史研究セミナー」開催について

2002 年度大学史研究セミナーは、以下の日程にて実施することを事務局にて確認いたしましたので、会員諸氏にご報告いたします。

日程： 11 月 16（土）、17 日（日）

会場： 明治大学（東京都）

開催校の明治大学からの提案により、「横尾会員の大学史研究に関する業績の学問的検討を考慮する」企画を準備しています。また、自由報告を募集いたします。報告希望者は 8 月末日までに福石賢一事務局員までお知らせ下さい。連絡先は以下の通りです。

807-8586 北九州市八幡西区自由が丘 1-1

九州女子大学文学部 人間文化学科 福石 賢一 宛

Tel.093-693-3335（直通）

Fax.093-693-3361（学科共通）

E-Mail: fukuishi@kwuc.ac.jp

（進藤修一記）

「ライプチヒ大学のマトリッケル編纂事業」

早島 瑛 (関西学院大学)

トーマス・ミュンツァー、ティコ・ブラーエ、ライプニッツ、クリスチアン・ヴォルフ、テレマン、レッシング、ゲーテ、フィヒテ、ノヴァーリス、ランケ、シューマン、ヴァーグナー、ニーチェ、フランツ・メーリング、カール・リープクネヒト、エーリヒ・ケストナー。これらの名前は程度の差はあれ、わが国でもなじみが深い。文学から天文学まで、神学から社会主義まで、音楽から哲学まで、時代も分野もさまざまであるが、彼らは皆ライプチヒ大学の同窓であった。同窓は会をつくり、会は名簿をつくるが、「同窓会名簿」に似て非なるものにドイツの大学の「マトリッケル」がある。

マトリッケルの編纂は大学史研究の重要な分野であった。いまもそうである。たとえば、ライプチヒ大学の場合、マトリッケルといえば『エラー』(Erler)であった。しかし『エラー』は1809年で終わっている。ところが、このライプチヒ大学はまもなく創設六百周年を迎える。『エラー』の続刊をつくろうということになっても不思議ではない。

プラハやヴィーンの大学が世俗君主によって、ケルンやエアフルトの大学が都市参事会によって創設されたのに対して、ライプチヒ大学は教授と学生のイニシアティブから生まれた。周知のようにプラハ大学では15世紀はじめベーメン王の圧政によってドイツ国民団の立場が悪化し、ドイツ人の教授と学生は隣接するマイセン辺境伯領に避難した。(デルセー(池端次郎訳)『大学史』上巻8章3節「プラハの大紛争」参照。) 辺境伯フリードリヒはこの機会をとらえ、教授学生の一団に土地、建物、基金を提供し、教皇から大学新設の認可状を獲得した。こうして生まれたライプチヒ大学は領邦君主に対して相対的な自立性をもったが反面きわめて保守的な性格をもった。人文主義と宗教改革に強い拒絶反応を示し、1539年ザクセン大公領がルター派になっても神学部はプロテスタント神学を否認したほどである。ところが、ひとたびプロテスタント神学を受け入れると今度は逆にルター派の牙城になった。このライプチヒ大学はライプチヒの経済発展とともに大いに発展し、17世紀はじめ学生数は1100名をこえた。当時はドイツで最大の大学であった。現在の学生数は2万6000名ほど、ドイツでは中規模の大学である。2001/02冬学期で26,553名、うち女性15,939名、外国人2,127名であった。(弘文堂『情報学事典』の「ライプチヒの情報空間」参照。)

ライプチヒ大学は1998年、創設六百周年記念事業として本格的なマトリッケル編纂の作業を始めた。『エラー』の続巻の編纂開始である。当面の目標は1809年から1909年までの1世紀分であるが、作業としては第三帝国崩壊の1945

年までを視野に入れている。事業主体はライプチヒ大学アルヒーフ。形式的には大学アルヒーフ館長が最高責任者であるが実質的に編纂作業の指揮をとっているのは首席アルヒヴァールのプレッヒャー氏(Jens Blecher)である。

マトリッケル編纂事業を開始するに当たり、大学当局がまづ取った措置は当然ながら人件費の増額であった。これによりマトリッケル編纂スタッフ4人分の予算がついた。人件費は一人当たり大学の副手職(助手職の二分の一)の俸給に対応した。では編纂スタッフは如何にして確保されたか。ライプチヒ大学では公募制をとった。採用条件は厳しく、かなり専門的な知識(ドイツ史と大学史)と特殊な能力(古文書の解読)が要求された。机の左手にマトリッケルの原簿をおき、原簿の各項目を解読し、データを右手のコンピューターに入力する作業を継続的に行う訳であるから、それ相当の視力と体力が必要になる。だが、失業率の高い旧東独地域のザクセン州に立地するだけに、応募者は多数であったという。結局、採用されたのはライプチヒ大学で古文書学を学んでいる学生など4名。現在、2名1組のスタッフ2組分が輪番制でデータの入力作業を行っている。

作業は3期分に分けて行われている。第1期は1809年から1825年まで、第2期は1825年から1889年まで、第3期は1889年から1909年まで。第2期と第3期、とくに第3期は学生が急増した時代である。作業量は格段に多い。1825年までの第1期のマトリッケルは学生の姓名、出身地、国民団の項目を含み、1819年から学歴、専攻、ライプチヒの住所の項目が新設されている。第1期のマトリッケルに関する作業が記載内容の解読・入力であるのに対し、1825年から1889年までの第2期のマトリッケルには、原簿とは別にアルファベット順に整理された浄書本が存在するので、この期に関する作業は浄書本の記載内容の入力、ついで原簿との照合作業となった。第2期の原簿の内容は学生の姓名、出生地、出生年月日、登録日、専攻、退学(卒業)の証明書の発行日、ライプチヒの住所、国籍、信仰、ライプチヒ大学入学前の滞在地(大学名)と詳細にわたっている。1889年以降の第3期のマトリッケルは原簿のみが存在している。このまま作業が順調にすすめば、創設六百周年の2009年には詳細な『ライプチヒ大学マトリッケル1809-1909』(Matrikel der Universität Leipzig 1809-1909)が完成する予定である。